

# 小学校教科等研修講座(道徳)

教科等指導員 花里小学校 教諭 吉本 潤

担当指導主事：宮崎 大樹

キーワード：道徳 教科化 評価 主発問 思考

## 1 実施概要

実施月日	講師等	場所・形態	演題（またはテーマ）
1月26日（木）	花里小学校 吉本 潤 教諭	花里小学校 5年2組教室	「友情・信頼とは（第5学年）」

## 2 主な内容

### (1) 研究授業「友情・信頼とは(第5学年)」

授業では、まず児童自身に友情と信頼について考えさせる。次に、読み物資料「友のしょう像画」におけるぼくの心情の変化から、友人二人の間の信頼と友情について考えさせることにより、信頼することで互いの友情が変わらないことや、友情が深まることがあることに気づかせた。また、適宜、ペア活動やグループ活動、役割演技やロールプレイを入れることで、友人二人の友情と信頼について深く考えさせることにより友情と信頼は表裏一体であることに気づかせた。さらに、授業の終末では導入で児童自身に考えさせた友情と信頼の関係を再度考えさせることにより、友情・信頼を深めたり強くしたりするためには何が必要か、自分なりの考えを持ったり、再認識したりする機会を与えた。



#### ① 児童の実態に対応した展開

特定の友達との関係を深めつつも特定の友だちが自分以外の友だちと関係を深めることに対し嫉妬したり、自分との関係を疑ったりする児童や、周りから見て、関係を深めているにも関わらず、本人は関係が深まっていないことを悩んだり、友だちが少ないと考えたりする児童に本授業を通して、友情や信頼とは日々の生活の中で徐々に深めたり強めたりするものであると考えさせるため、導入と終末において自身の友情や信頼に関して考えさせる展開を行った。

#### ② 評価の活用

授業者が形成的評価を授業中、授業後に行うことで、児童が道徳的価値について考えたことや、現在や今後の自身の行いについて考えたことをさらに肯定することができる。このことにより児童の思考をさらに深めたり、道徳的に価値のある行動を促したりすることを狙った。

## 3 成果と課題

### (1) 成果

- ① 子どもたちの発達段階に合わせた教材が選択できていたため国語的な要素が排除できた。
- ② 子どもたちの思考に合わせた展開であり、多くの児童が道徳的な価値について自分の体験や生活に合わせて考え深めることができる授業展開であった。
- ③ 役割演技などさせることで、子どもたちの思考を深めることができた。
- ④ 形成的評価を有効に活用することで、子どもたちの思考が深まった。
- ⑤ 道徳の授業は特に、学級経営が授業の展開に大きく関わることがわかった。

### (2) 課題

話の順をおって発問できなかつたので、すべての子どもの思考が深まらなかつた場面があつた。